

結城紬生産技術研究会

篠塚 雅子* 中野 睦子* 本庄 恵美*

1. はじめに

結城紬産地の課題のひとつに後継者の確保・育成があげられる。結城紬の生産工程は、ほぼ全てが手作業であり、各生産者が長年の経験により培われた技術によって、生産に取り組んできている。

これまでの結城紬の後継者は、それぞれの生産現場で繰り返し生産に携わりながら、独自の技術を継承することで育成されてきた。しかし、近年では従来の育成体制をとることが困難となってきたことから、将来にわたり効果的な人材の育成を図るための取り組みが必要となっている。

2. 目的

結城紬の工程は細かい部分も含めると約 40 以上工程がある。

本研究会では、生産者と情報・意見交換しながら、結城紬の各生産工程技術をまとめ、テキスト化することを目的としている。また、原料手紬糸の太繊度化といった要因により、品質維持に苦慮している現状もあることから、併せて工程の再検証や技術情報の共有を図る。

3. 活動内容

平成 29 年度は、無地・縞柄製織の準備工程である下ごしらえ及び糸つむぎ技術について、意見交換及び調査を実施した。特に糸つむぎについては、人材育成が緊急の課題となっていたことから、技術テキストを試作し、内容の検証のため、糸つむぎ者育成事業参加者に提供を行っている。

平成 30 年度については、引き続き無地・縞柄の下ごしらえ及び拵たて糸製作工程に関する意見交換、また染色に関する講演会を実施した。

3.1 第 4 回研究会

開催日：平成 30 年 11 月 26 日

参加者：5 社 5 名

内 容：「図案から拵柄の展開について」

- ・当所で作成した拵柄展開パターン図（図 2）を紹介した。また拵設計図案からの糸量計算方法を確認した。

「拵糸作製の工程について」

- ・基本的な作製工程順についての確認、各企業での実施例について、意見交換を実施した。

「糸糊付け条件について」

- ・澱粉の糊化温度と安定性に関する技術資料を紹介し、各企業における実施例について意見交換を行った。



図 1 第 4 回研究会の様子

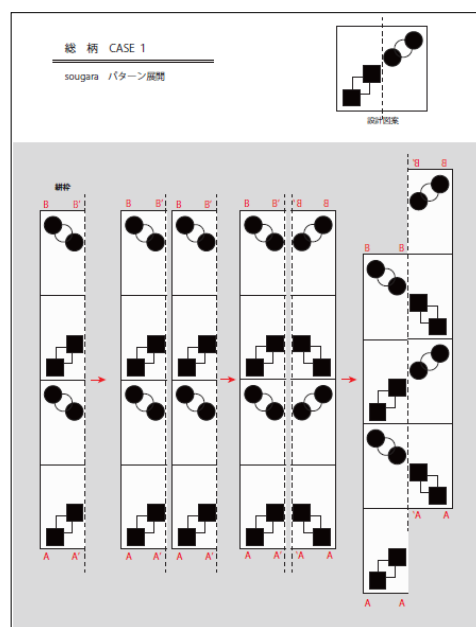


図 2 拵柄の展開パターン図一例

3.2 第 5 回研究会

開催日：平成 31 年 2 月 22 日

参加者：8 社 12 名

内 容：①講演会

「染色現象は“自然”に起こる現象である - 自然に起こるための条件と染色系を構成する成分の役割と働き - (講師 椋山女学園大学 教授 上甲 恭平 氏)」

・色素が染まる（染色）現象について、自然に起こる過程において、染色系を構成している成分分子がどのような役割を担っているのか、特に水分子の役割と働きについてなど、染色に関する基礎的な技術を解説いただいた。

②意見交換会（染色関連業者対象3社3名）

「結城紬染色に関する課題について」

- ・現在、結城紬の染色関連の課題として、産地規格に適応した染色堅ろう度品質を有し、かつ産地独自の染色手法にて適応した染料の確保が課題となっている。

意見交換会では、染料調査や評価手法について、助言いただいた。

また、手つむぎ糸に発生する染料の浸透不良に関して、その要因や対応策について、意見交換及び情報提供を受けた。



図3 第5回研究会の様子

3.3 工程技術の記録調査

テキスト化するにあたり、下ごしらえ工程に関する各工程の調査及び記録作業を実施した（図4）。

記録作業については、初心者または経験の浅い従事者が、技術習得にあたり、参考にできる標準的な手法を選定するとともに、作業のポイントとなる細かいノウハウ部分の表現方法、画像の撮影及びイラスト化を検証した。



巻付け前の糸揃え



綾返し



整経 綾とり



紺糸切り換え

図4 工程記録一例

4. まとめ

これまで、作業内容の細かい点まで生産者同士で改めて議論する機会がなかったこともあり、研究会では、若手の生産者がベテランの生産者に、疑問点やノウハウについて、熱心に質問をするなど、活発な意見交換が行われた。

研究会を通して、自社で実施の方法との違いなど、情報を共有することで作業工程を再確認する機会が得られたとの感想も聞かれた。

今後も引き続き、テキスト化に向けて活動を実施するとともに、研究会を通じ技術情報の共有や工程の再検証を実施し、生産技術の向上や改善の支援を実施していく予定である。